

千葉市から千葉県を元気に!!

小川としゆき

県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会
〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話 043(227)7411

物流の発展へ戦略構築を

2月定例県議会一般質問



登壇し、一般質問を行う小川としゆき県議

ふるさとのまちづくりを注いでいる小川としゆき県議(千葉市若葉区選出、1期)は県議会初当選後、早くも4回目の登壇を果たし、熊谷知事ら県執行部に様々な課題に対する施策を質問しました。物流業界はトラックドライバーの時間外労働上限規制である「2024年問題」など難しい問題に直面していますが、小川県議は、物流分野の持続的な発展を実現するには関係者すべての連携・協力が必要として、未来への投資などの戦略構築を提言しました。小川県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

小川議員 物流は、国民生活や経済活動を支える重要な社会インフラだが、今、「物流の2024年問題」や「カーボンニュートラルの実現」など様々な問題に直面しており、これらの問題を解決し、持続的な成長を今後実現していくためには、国や地方自治体、荷主、一般消費者など関係者すべての連携・協力が必要だ。

知事 本県は、成田空港や千葉港といった日本有数の貿易港を擁するとともに、京葉臨海コンビナートなど、産業集積が進み、豊かな自然環境や農林水産物などにも恵まれていることから、ヒト・モノの円滑な流れを確保することが、持続的な経済成長を促進する上で重要です。

このため、圏央道、北千葉道路などの広域的な幹線道路ネットワークや千葉港などのインフラの充実を図るとともに、運送事業者の人手不足の解消のため求職者とのマッチング支援など、様々な施策に取り組んでまいりました。

また、成田空港の機能強化にあわせ、空港周辺市町とも連携をしながら、地域未来投資促進法などの活用により、空港周辺地域に物流・産業拠点の形成を進めることで、県内物流機能の更なる充実を図り、県全体の経済の活性化につなげていきたいと考えております。

また、脱炭素化に向けて、トラック等を燃料電池自動車に転換する場合の課題を整理するとともに、実証

環境の変化への対応 県、運送事業者支援
小川議員 本県では、運送事業者に対する設備投資の促進やDX・GXの推進にどのように取り組んでいるのか。

要望 小川議員 物流を要望 集積しても血管ともいえる道路網がしっかり整備されていないと、その機能も半減してしまう。特に本県は、空の玄関口だけでなく、海の玄関口を有しており、その機能を発揮するためにも新湾岸道路や臨港道路の整備を更に促進していかねばならない。

●千葉市と千葉県政に関するご要望をお寄せください。

小川としゆき 県議事務所

〒264-0017 千葉市若葉区加曽利町1032-81
TEL. 043-232-1435

ホームページもご覧ください▶ <https://www.ogatoshi.com>

ドローン物流活用を

小川議員 物流の強化を図るため、ドローン物流にも取り組むべきだと思うがどうか。

商工労働部長 ドローンは、災害時の情報収集、インフラ施設の点検等、様々な分野で活用されており、物流分野においても、運送の一部をドローンに転換することにより、省力化やコスト削減などに寄与するものと期待されております。

しかしながら、ドローンを物流に活用するには、積載量や飛行時間の大幅な向上、遠隔操作システムの開発、実際にドローン転換効果を実証するためのフィールドの確保といった課題がございます。

そこで県では、空き公共施設などを活用して、ドローンの研究開発を進めている先端企業の立地を進めるとともに、実証実験の実施に向け、物流事業者と市町村等とのマッチング支援に取り組んでおります。

引き続き、物流における効果的なドローンの実用化に向け、様々な観点から支援をしてまいります。

実験の実施に向け、関係者と協議を進めているところ
は必要であるので、是非千葉県版ロジスティクス戦略の策定を強く要望する。

博物館 図書館 文書館 MLA連携を一層推進

要望 小川議員 知の連携についても、現在進

小川議員 千葉氏や貝塚にまつわる歴史的資産、文化資産は本県のアイデンティティに資するものであり、観光資源にもなりうることから、千葉市だけで展開するよりも、むしろ広域的な一体的な活用を図った方が効果的であると考えます。

そこで、うかがうが、県として千葉氏の価値をどのように認識しているか。また、縄文遺跡群を一体的に保存活用すべきと考えます。

小川議員 MLA連携をさらに進めた知の連携を進めるべきと考えますが、いかがか。

教育長 県では、県立図書館と県文書館を複合した新たな施設を整備し、近接する県立中央博物館とのMLA連携により、文化情報資源の蓄積と活用を図ることとしています。

そのため、各施設の職員によるワーキンググループにおいて、課題の共有や他県の先進事例の研究などを行い、連携の在り方について協議等を行っています。

また、今後、県有施設のMLA連携を進めていく中で、企業や学校等を含めた様々な関係機関と連携することで、それぞれが蓄積した知識や情報等を活用し、県民への幅広い学習機会を提供してまいります。

千葉氏の歴史、縄文遺跡群 一体的な活用を提言

がどうか。

教育長 千葉常胤に代表

される千葉氏については、房総を代表する武士の一族であったと認識しており、佐倉市・酒々井町にまたがる本佐倉城跡等、国や市の史跡

めているワーキングチームの中で、本県の文化水準が高まり、所蔵しているものの価値を高められるような連携になるよう、しっかりと

に指定されている城跡もあります。

また、縄文遺跡群については、国の特別史跡である加曽利貝塚をはじめ、東京湾に沿うように残されている市川市や船橋市の貝塚

協議を進めてもらいたいと思うし、企業や大学、地域などを巻き込んで、より効果が発揮できるよう取り組んでいきたい。

宿泊税の根拠を説明 県、市町村と意見交換

小川議員

宿泊税150円の根拠と、市町村への配分はどのように考えているのか。また、千葉市議会や浦安市議会から意見書が上がってきているが、それに対する県の認識と対応はどうか。

浦安市の議会から提出された意見書において、県内市町村や宿泊事業者に対し、さらなる説明を求める御意見があったこと、などを踏まえま

して、先月、市町村との意見交換会を開催いたしました。この中で、半島という特殊性を抱える本県の場合、広域的な観光振興が重要であることから、県が主体となつて宿泊税を導入すること、また、その税率については、今後必要となる事業の規模や、市町村が独自課税をしやすいう水準を考慮し、一人一泊150円としていきたいことについて、改めて丁寧

など、県内に点在する多くの貝塚が、国や県等の史跡に指定され、整備されています。

県教育委員会としては、地域に広がる文化財について、必要な調査を実施した上で指定・登録を行うとともに、市町村とも連携しながら保存を図っており、引き続き、本県のアイデンティ

イに資するような活用を進めてまいります。

「房総ジビエ」需要拡大へ

小川議員

有害鳥獣のうち、イノシシ、シカ以外の中型獣や鳥類を食肉利用するための施設の整備や、房総ジビエとしての積極的な推進

について、県はどのように考えているのか。

農林水産部長 県では、県内で捕獲したイノシシなどの食肉利用の拡大に向け、

市町村による処理加工施設の整備等を支援することにも、イノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、需要拡大に取り組んでいるところだ。

現時点では、「房総ジビエ」にイノシシやシカ以外の肉は含まれていませんが、市町村が策定する被害防止計画に位置付けられた鳥獣であれば、食肉処理するための施設整備への支援は可能です。

農作物被害を防止するために捕獲した鳥獣の命を大切にすると取組として、市町村や食肉処理加工施設の運営者等の意見も聞きながら、イノシシやシカ以外の捕獲した鳥獣について、「房総ジビエ」としての利活用の可能性について検討してまいります。

要望 小川議員 目的税の原則からすれば、負担したところにしっかりと還元されるべきと考えます。市原市のように宿泊者のほとんどがビジネスユースで

プロスポーツチームと連携強化

小川議員

地元プロスポーツチームとの連携を強化すべきと考えますが、いかがか。

知事 県内には、野球やサッカー、バスケットボールなどプロスポーツチームが数多くあることから、その優位性を活かしてプロスポーツ

チーム等で構成する連絡協議会を設置し、情報交換や

連携した取組を実施していきます。

令和5年度は、選手等を

学校に派遣する「ちば夢チヤレンジかなえ隊」を19校で実施したほか、「ちば夢チヤレンジパスポートプロジェクト」では、6チームが前年度の約2倍となる約13万人の児童・生徒等を13公式戦に

招待し、今年度はさらにラグビーチームが1チーム加わったところです。

引き続き、各チームと連携した取組を強化し、県民にスポーツの素晴らしさを伝え、スポーツに親しむ機会を提供することにより県民のスポーツ振興を図ってまいります。

要望 小川議員 これらの地域資産の価値を

高めるために県の更なる支援をお願いしたい。



県の施策に要望する小川県議